

維持管理・環境管理専門委員会の活動

# 1. 活動報告

- 第37回協議会(平成26年8月29日)以降、会議を2回開催しました。
- 第2回(10月17日)の会議では、「残りの整備」と「維持管理実施計画」の検討を行いました。その結果、具体の検討は委員会で現地状況を確認してから行うべきとなりました。
- 第3回(11月18日)の会議は、上池の現地で行い、整備箇所や周辺の状態を確認し、意見を出し合いました。
- 今後、引き続き中池・下池を確認するとともに、平日とは異なる休日の状況についても1回現地確認を行う予定です。

会議

上尾市文化センター

第2回 平成26年10月17日 9:30~11:25



上池（現地）

第3回 平成26年11月18日 9:30~11:35



④3) 呑口

- 呑口は構造物であり管理瑕疵の可能性があるので、立入禁止措置が必要である。
- 呑口は、案内者がついていない条件では見せるようにはしない。
- 呑口はゴミが溜まっており、除去が必要である。
- 昔の呑み口の方が本川の流れに対して鋭角に合流しているため、ゴミがたまりづらいと思う。

④2) 導水路

- 呑口までは本田航空の占用道路から遠いため、導流工を説明する場としては、導流工と本田航空占用道路の交差部をしっかりと草刈し、常に水路が見えるようにすべき。また、説明看板が必要。

④1) 管理用通路、旧流路、モトクロス場跡地A

- この場所に通路は必要であり、維持したい。
- 通路は観察会・学習コーナーなどで利用したい。
- 雑草が生えないような道路も考える必要がある。例えば、環境にやさしい舗装。ただし、本当の管理のためと人を入れるためのもの。
- 人や車が自由に入れるようにすると、不法投棄されたり外来種が侵入しやすくなるので注意したい。
- 整備地内の管理は、当面はモニタリング結果を見ながら必要性を考える。
- 通路周辺のハリエンジュや外来種の草本、クス・カナムグラは早急に除去したい。クワも管理したい。

③モトクロス場跡地C

- ヤナギ類は湿地の植物であり、鳥も利用する良好な自然の要素なので、このままで良い。もし過剰になったらそのときに伐採すれば良い。
- 現在のオギ群落へ、旧流路から水を入れることで、より湿潤化を図り、ヤナギを抑制することは考えられる。
- コウノトリのような鳥類が採餌しやすい湿地が欲しいが、ここはオギ群落で使えない。モトクロス場跡地Dの整備地の様子を見たい。
- オギ群落のところを一度、野焼きをしたい。
- 旧流路河岸のタケ類を管理したい。在来種の河畔林は下流端に分布し、数個体がタケ類に混じって点在するので、それを残してタケ類は除去したい。

②モトクロス場跡地D (H25整備：見本池)

- 見晴台の高さは、50cmではやはり低いのでもう少し高かった方が良かったが、あまり高いと安全対策も必要になってくるので、高さ設定には注意が必要。
- 「見本」として整備したが、現状はオギの繁茂が著しく、見晴らしは良くない。ここを見せることにこだわらず、H25-26の整備範囲が拡大したので、そちらと旧流路を展望しやすいようにした方が良い。

呑み口  
導水路

④

管理用通路

柵

柵

試験地の柵

柵

②

見晴台

③

①

⑤1) 旧流路

- 延命地蔵尊のところは整備地の眺めが良く、樹木の陰であることや地元の方が管理されていることから草本が無く入りやすいので、展望場所として利用したい。
- 人を案内するのに良い場所であり、事業概要の看板が欲しい。
- 水辺に近づきすぎると鳥に影響するので、整備・利用にあたっては適切な離隔距離の設定が必要である。
- 農業法人の関係者に協議会への協力を呼びかけたい。

⑤2) 太郎右衛門橋

- バス停からの歩行者向けに、堤外に降りる道路の入口に看板が欲しい。

実施計画  
事業範囲

- 各整備地に共通
- 土木的な意図を持って整備した場所には、それを説明する看板が必要である。
- ヨシやオギ群落を維持するためには、クスやカナムグラなどのつる性草本の管理が必要である。

①横堤付近、旧流路、モトクロス場跡地D (H25-26整備)

- 横堤の突端に昔のコンクリートの基礎があるが、ここにのぼるだけでも眺望が良くなる。なんらかの展望施設を設置して欲しい。現在上池で工を行っている古郡建設の仮設プレハブ小屋の様なものでも良いし、四阿なども良いと思う。
- 看板があった方が良い。
- トイレが欲しい。三ツ又沼ピオトープにあるような簡易なものでは衛生的に保たれないので、しっかりしたものが欲しい。場所は堤内でも良い。
- 旧流路やモトクロス場跡地D (H25-26整備)の整備地を周遊する通路は必要ない。
- 伐採試験中のシンジュは、整備地に近いので根絶させたい。
- モトクロス場跡地Dは、旧流路との接続はせずに異なる環境のままとしておく方が多様性が高まると思う。普段は地下水位に応じた状態とし、それ以外は高水敷が冠水する規模の出水時に水が入れば良い。

□：特定の場所モニタリング地点

◀ 整備地 ▶

平成26年度まで

平成27年度以降

【道路の凡例】

- 自動車が通行可能
- 歩行者が通行可能 (軽トラック等は通れる場所もある)
- 道路跡が残っている (路面状態により歩ける場所もある)

